

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194300026		
法人名	有限会社 もりと会		
事業所名	グループホームはなしのぶ		
所在地	釧路郡釧路町別保9丁目28番地		
自己評価作成日	平成24年7月31日	評価結果市町村受理日	平成24年9月14日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0194300026&SCD=320&PCD=01
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年8月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活の中では、響きあいを大切にそして喜怒哀楽が表現できて、充実した日々を過ごせる様に職員一同支援いたしております。
一人一人の要望に対して、出来る限り対応している
例 外出リハビリ(ショッピング・外食等)
日々の食事等
日々の変化を求めて(ボランティア活動の導入)
地域の行事に参加している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<事業所の持つ機能の地域への還元>
小・中学生の体験学習の受け入れや保育園児との相互訪問、地域ボランティアや専門学校生の受け入れ等を通じて、事業所の持つ機能を地域に還元していると共に火災や地震等の災害時に備えて、地域の人々が参加して緊急時の避難訓練を実施するなど地域との協体制度を築いている。また、敬老会や盆踊り等の地域行事参加で地元の人々との交流促進が行われている。
<日常的な外出支援>
一人ひとりの力やその日の希望に沿って、町内周辺の散歩や外気浴、敬老会や盆踊り等の地域の行事参加、保育園児や小・中学生との相互訪問を通じた交流、お花見など戸外に出かけられるよう支援している。また、職員の離職はほとんど無く、馴染みの関係を築き、本人が安心して地域の中で暮らし続けられるよう支援している。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)				項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目		取り組みの成果 該当するものに 印		項目		取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月1回ミーティングで新ケア理念である一人一人を大切に、安心・安全と穏やかな生活を共に過ごす、響き合いを大切に共有し実践している。理念を居間の目につきやすい場所に掲示しよりよいサービスの提供に日々取り組んでいる。	事業所独自の理念を作り上げ、管理者と職員は毎月のミーティングを通じて理念を共有し、その実践に繋げている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し地域行事(敬老会、盆踊り大会、地域一斉清掃、夏祭り、等に積極的に参加しグループホーム主催の行事にも地域の皆様の参加があり相互の交流がある。又小中学生の職場見学の場として開放し交流を図っている。	小・中学生の体験学習の受け入れや保育園児との相互訪問、地域ボランティアや専門学校生の受け入れ等を通じて、事業所の持つ機能を地域に還元していると共に火災や地震等の災害時に備えて、地域の人々が参加して緊急時の避難訓練を実施するなど地域との協力体制を築いている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において認知症ケアの取り組みを適時報告している。又地域のボランティアの方を受け入れグループホームの理解を深める機会を設けている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催しホーム全体の取り組み状況、はなしのぶ通信による日々の生活状況を報告しご意見、ご要望をサービスの向上に繋げているが参加者がいつもほぼ同じで新しい意見が出にくい状況にあり参加メンバーの再検討を考慮していく。	運営推進会議は、行政担当者や包括支援センター職員、家族や地域住民が参加して年6回開催し、昼夜を想定した防災訓練や避難誘導、地域との協力体制について具体的に話し合っている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席していただいております。その中でケアに対しての取り組みを報告している。運営に関する疑問は都度相談し指導をいただき、又メールでの研修案内、食中毒関連等の情報提供があり協力体制をとっている。	町担当者とは、運営推進会議や日常業務を通じて情報交換・助言等を通じて、ケアサービスの質の向上に活かしている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない具体的な行為についてホーム内外研修を通して周知徹底を図っている。日中玄関は施錠せず外出された場合、音で気づけるようにし、外に出られた際には状況に応じて引き止めたりせず本人の気持ちを尊重するように心掛けている。	管理者・職員は、指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を研修会等を通じて正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外研修、会議等で学ぶ機会を持ち連携を強化し支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	専門職に入って頂き、日常生活自立支援事業や成年後見制度について勉強会を開催した、更に研修に参加して学んだ事を職員に報告して理解を深め会議の時に学びあっています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学や相談時より利用者あるいは御家族と納得のいくまで説明し、理解を図った上で署名捺印を頂いています。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、運営推進会議、御家族が来訪の際に意見、要望等を伺う機会を設け、日々の中で活かしている。利用者には日々、傾聴しています。	家族会を年2回開催し、意見交換していると共に意見や苦情等を言い表せるように苦情受付窓口や市町村の相談窓口等の啓発ポスター等掲示している。また、家族と共に本人を支えていく為の信頼関係構築に取り組んでいる。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度職員会議を開き、常に提案できる環境の下で意見を反映させている。	職員の待遇改善や職場環境の整備等働きやすい環境作りに取り組み、毎月の職員会議で職員の提案や意見を聞くよう機会を設けている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、労働時間や給料を検討している。職場環境としては、環境の変化に応じてその都度整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修は、積極的に受ける機会を提供している、そして研修内容を会議の時に報告する。ホーム内でも実技研修、意見交換をしています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会道東ブロックでは、研修、交流等を行なっているので、職員がそれらに参加することで、サービスの質を向上させていると思う。他の管理者等の来訪時に交流を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談を受けた時点で思いや要望等を傾聴し話し合いを重ね安心していただけるよう配慮している。又不安を抱えながらの入居も多いので慣れるまでの間は利用者同士の橋渡しをする事でホームでの生活が安心して送れるよう支援している		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	言葉に表現出来る思い、又その奥にある言葉に出来ない不安を傾聴し利用者、家族に安心していただけるよう配慮している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受け、本人、家族の要望や状況を踏まえ、ケアマネ ジャーや地域包括からの情報をいただき、連携しながら必要な支援に努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者それぞれの知恵や人生で学んだ事を生活の中に活かし支えあう関係作りに努め、一緒に食事の準備をしたり、季節の食材を使用した食事作り等教えていただき、体調に応じて役割を持ち支えあう関係に努めている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の生活を支える事の重要性を伝え、家族との信頼関係のもと、ケアの方法・方向性を随時相談し支えていく関係を築いている。又年1回の家族会で交流の機会を持ち利用者のよりよい暮らしになるよう協力をいただいている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人との面会はいつでも行え、共に過ごす時間を大切にし、馴染みの人と馴染みの関係が継続できるよう支援している。	本人と地域の人達とのこれまでの馴染みの関係が継続できるように地域の行事参加や併設のデイサービスに通う知人・友人との交流等、継続的な交流ができるよう支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格、感情の変化を理解し気の合う方と楽しんで交流できるよう雰囲気作りに努めている。又 レクリエーション等通じて利用者同士の関わりが持ちやすい環境作りに配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族にその後の様子を伺う等入院先へ面会に行ったり、家族がホームに寄って下さったり築いてきた関係を大切にしつつでも相談を受ける体制である事を説明している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いや意向を聞き取りしそれに沿うよう努め困難な方は家族や関係者から情報収集しセンター方式を活用しながら本人らしい暮らしを引出し支援している。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望や家族の意向をセンター方式を活用して把握に努め、職員間で情報の共有が行われ、本人本位に検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し入居時の面談の際に生活歴や馴染みの暮らし方等の情報把握に努め、家族の面会時に必要に応じて情報を得ている。又関わりのあった福祉、医療の関係者からの情報を収集しサービスに繋ぐよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の経過記録、申し送りノート、ミーティング等で情報を共有し職員は個々の状態を把握し変化に応じた対応に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の担当者会議においてスタッフから意見や利用者の状況についてモニタリングし、又家族の意向を踏まえ3ヶ月に1回又は必要に応じて介護計画の作成を行なっている。	一人ひとりの生活歴や本人の意向を把握し、家族や必要な関係者と話し合い職員ミーティングやモニタリングを通じて現状に即した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別チェック表、経過記録、ミーティング等で情報を共有し職員は個々の状態を把握し変化に応じた対応に努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて通院、送迎等必要な支援は柔軟に対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアの来訪があり保育園、小学校、中学校にも出かけ町内会の盆踊り、敬老会等にも積極的に参加され、必要に応じて地域住民の方にご協力をいただいている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に家族が付きそう事になっているが状況に応じて職員が家族に代わり受診する事もあり柔軟に対応している。又歯科、皮膚科の往診があり連携を図り支援している。	医師・歯科医師の往診や訪問看護の利用や通院への支援で適切な医療を受けられるように柔軟に支援している。また、受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護を依頼し日々の心身の状態や情報、気づきを伝え、指示を受けながら利用者が適切な受診ができるよう支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は小まめに面会を行い安心していただけるような声掛けを心掛けている。又病院関係者とも情報交換し早期に退院できるよう連携を図っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に事業所として出来る事の説明をさせていただき、ケアプラン作成やアセスメントをとる際、又利用者の体調の変化が生じた時等に、家族に終末期の確認をしている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを目につきやすい場所に置きいつでも確認できるようにしている。応急手当や心肺蘇生法等の訓練にも参加し今後も研修の機会を持つ		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策について地域住民の方々と交えた避難訓練、消防職員・防火管理者による避難、誘導の具体的な方法の指導、昼夜を想定した避難訓練を地域住民協力のもと年2回実施している。	年2回の避難訓練の実施や地域住民と昼夜を通じた協力体制を築いている。また、スプリンクラー、火災報知器、自動通報装置等設備が完備し、定期的に点検している。	今後は、事故を未然に防ぐヒヤリ・ハットのさらなる活用を検討しているので、その実践に期待します。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを尊重し、さりげない声掛け、言葉掛けを行っている。又日々プライバシーの確保に努め利用者の権利を常に意識しながら職務にあたっている。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を職員間で共有している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望を聞き外出し衣類や食料品等本人の意志で好きなものを購入され、出来るだけ希望に対して早急に対応している。又自己表現の出来ない方は表情やしぐさ等から思いをくみ取り自己決定に近づけるよう努力している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調に配慮しながら本人の気持ちを尊重し職員と連携をとりながら希望に合った外出や趣味活動を支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔な整容を心がけ季節に応じた季節感の衣類を着用しおしゃれを楽しんでいただけるよう支援している。化粧の習慣のある方へは場面毎に応じた支援を行なっている。又定期的に美容師の方に来ていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みのものを聞きながらメニュー作りをしたり、その方の力に応じできる事をしていただいたりできそうな方には職員と一緒に食事の準備、片付けを行い楽しみながら支援し味付け等利用者と一緒に行う事で食事の楽しさを知っていただけるよう努めている。	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、食事の下ごしらえや味付け、準備等職員と一緒にやっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェックを確認し水分が摂りにくい方には水分不足を補うためにゼリー、スポーツ飲料等本人の好みに合わせた水分補給を心がけている。食事はその人の状態に応じて、きざみ食、ミキサー食を提供し栄養バランスを考慮し食材も旬なものを出るだけ使用し工夫に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々に合わせた口腔ケアを行い自力困難な方には介助し虫歯や入れ歯の状態をチェックし治療が必要な場合は歯科往診にて対応し清潔保持に努めている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行なっている。リハビリパンツ、パットはその方に合わせた物を使用し時間毎のトイレ誘導を行い失禁で不快にならないよう努め日中は状態に応じて綿パンツ使用を心がけている。	一人ひとりの力や排泄パターンをチェック表で把握し、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ホーム内運動、ラジオ体操、軽体操等を取り入れ便秘予防に取り組んでいる。又主治医と相談し下剤の調整を行い、出来るだけ食物繊維のある食事の提供、起床時の牛乳、野菜ジュース等個々に合った対応の検討に努めている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の意志を聞き体調を確認し個々のペースに合わせてゆっくりと入浴を楽しんでもらえるよう入浴剤を使用しリラックス出来るような支援を行なっている。概ね2、3日に1度のパターンで実施しているが希望がある場合には柔軟に対応している。	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、週2～3回の入浴を目安に支援している。また、本人が希望すればいつでも入浴が可能となっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズムに合わせて個々の居室や共有スペースで自由に休息をとっていただいている。自力困難な方にも状況に応じて自室に誘導し休んでもらうよう支援している。又夜間良眠できるよう日中の活動量を考えメリハリのある生活を心がけている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から処方箋を必ず頂き診療報告書に薬の名前、注意事項等具体的に記入し職員間で周知徹底としている。自力で内服できない利用者には介助し内服するまでその場を離れず確認するよう努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人が張り合いや喜びのある生活が送れるように、その方の力に応じた役割と担っていただき個々の希望にも柔軟に対応できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を聞き迅速に対応するよう心がけている。身体機能の低下に伴い外出を好まない方もいるが町内会周辺の散歩、外気浴等声掛けをおこない、状態に応じて車椅子を利用し戸外にでかけられるよう支援している。	一人ひとりの力やその日の希望に沿って、町内周辺の散歩や外気浴、敬老会や盆踊り等の地域の行事参加、保育園児や小・中学生との相互訪問、お花見など戸外に出かけられるよう支援している。また、職員の離職はほとんど無く、馴染みの関係を築き、本人が安心して地域の中で暮らし続けられるよう支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時事前に本人へお金を渡し自分の財布を持ち財布から自力で払えるよう見守りし使徒の把握に注意しながら所持、使用を支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば自由に使用でき職員が電話の使用介助を行なっている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光、室温、音等の調整に気を付け心地よく過ごせるよう配慮している。季節を感じていただくために花や観葉植物を置き、又壁にパッチワーク、等を飾り、工夫している。	1階平屋建てで、敷地にはパークゴルフ場や野菜園が作られている。また、共用空間は広く、ゆったりしていて一人になったり、談笑ができる椅子やソファが配置されて本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにソファ、椅子を置設置しゆっくりと過ごせる場所を確保している。居間以外には談話コーナーを設け思い思いに過ごせる工夫をしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔使用していた家具やテレビ等馴染みのあるものを持参されている方もおり、自宅で暮らしていた頃と違和感があるべく少なくなるよう心がけている。又自室に花、写真等を飾り居心地良く過ごせるよう工夫をしている。	居室は広く、使い慣れた家具や家電製品、寝具や家族の写真等が持ち込まれ、安全に配慮しながら配置し、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が歩くスペースには危険となるようなものを置かないよう心がけている。トイレ、入浴等の字を大きくし自室の名前も利用者の見えやすい位置に設置し安全に配慮しながら支援している。		

目標達成計画

事業所名:グループホームはなしのぶ

作成日:平成24年8月22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	18	一人ひとりのその時々のおもいや意向をさらに尊重した取り組みの実践	ご本人の意向や思いを尊重し、行動できるようにさらに検討を進めていく。	・お祭り等の地域の行事参加や花見など戸外に出かける機会を増やす。 ・毎月開催する職員会議で職員間の共有を図っていく。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。